

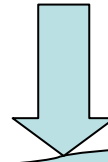
# 弾力的な学級編制等の推進 ～兵庫県における取組～

兵庫県教育委員会

# 小・中学校における新学習システムの導入

不登校や、いわゆる「学級崩壊」の問題

基礎・基本の定着、適正等に応じた教育の工夫改善



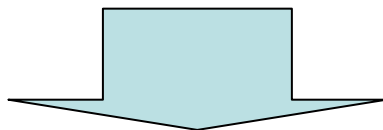
「新たな学習システムの在り方等に関する調査研究会」(H11.9)

子供達の実態や地域の実態に応じて、教科担任制や同室複数指導、弾力的な学習集団の編成等を行う等新しい学習システムの開発に努め、学ぶことの喜びや達成感・成就感を実践させる教育を実践する。 など

平成13年度より、児童生徒の発達段階や教科の特性等に応じてより柔軟に多面的できめ細かな指導を推進

# 新学習システムにおける35人学級の導入

- 小学校 1・2年生:35人学級編制・複数担任制の実施(H23年～基礎定数)
- 小学校 3・4年生:35人学級編制・少人数学習集団の実施
- 小学校 5・6年生:少人数学習集団の実施、兵庫型教科担任制の実践研究
- 中学校 全学年:少人数学習集団によるきめ細かな指導の推進



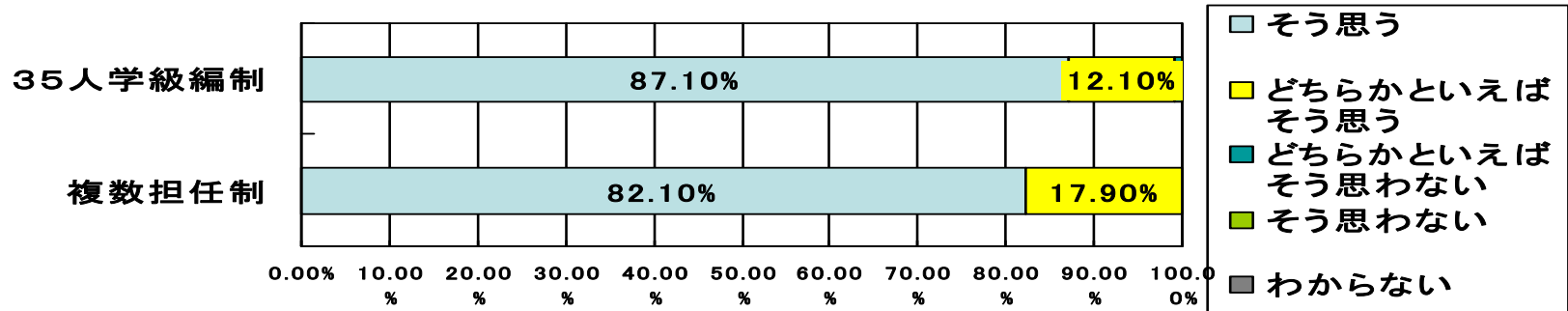
16年度(1年生)から順次導入、20年度に小学校4年生まで35人学級導入  
(指導方法の工夫改善定数等を活用)

# 弾力的な学級編制

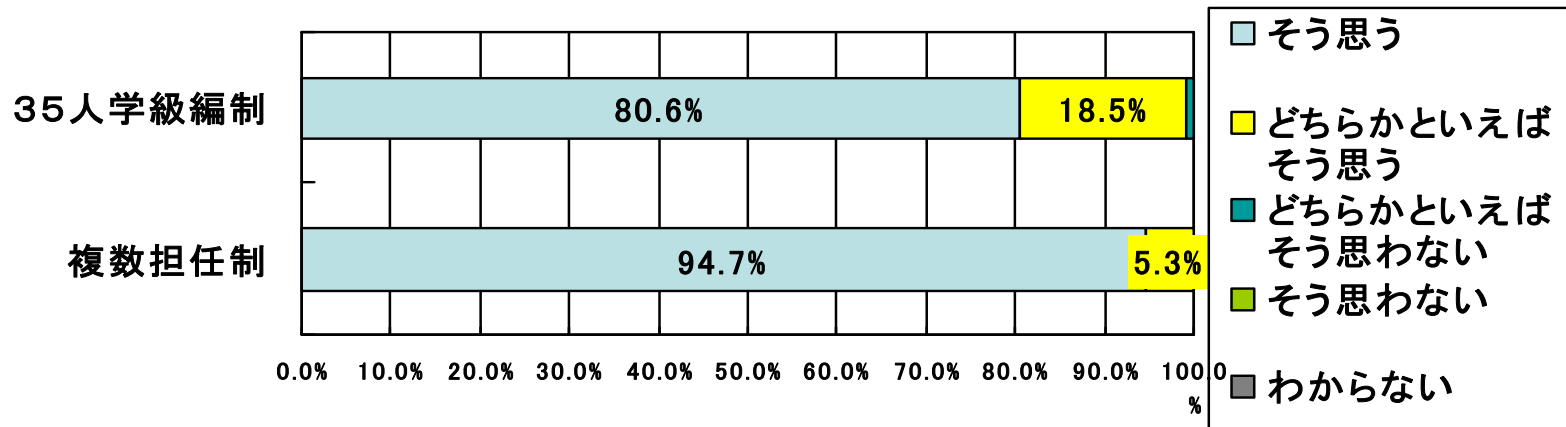
- ・特別な配慮を要する児童が多数在籍するために複数担任制を選択する場合
- ・少人数学級にした場合の効果が小さく、少人数学習を選択する場合
  - (例)1学年261人の場合
    - 40人編制 7学級 37.2人/cl
    - 35人編制 8学級 32.6人/cl
- ・教室不足等により、複数担任制を選択する場合など
  - ※高砂市立荒井小学校の事例

# 新学習システム調査結果(1)

□基礎・基本の確実な定着を図り、一人ひとりに応じた学習指導ができるかについて、「そう思う」と回答している割合は「複数担任制」と「35人学級編制」では同程度である。

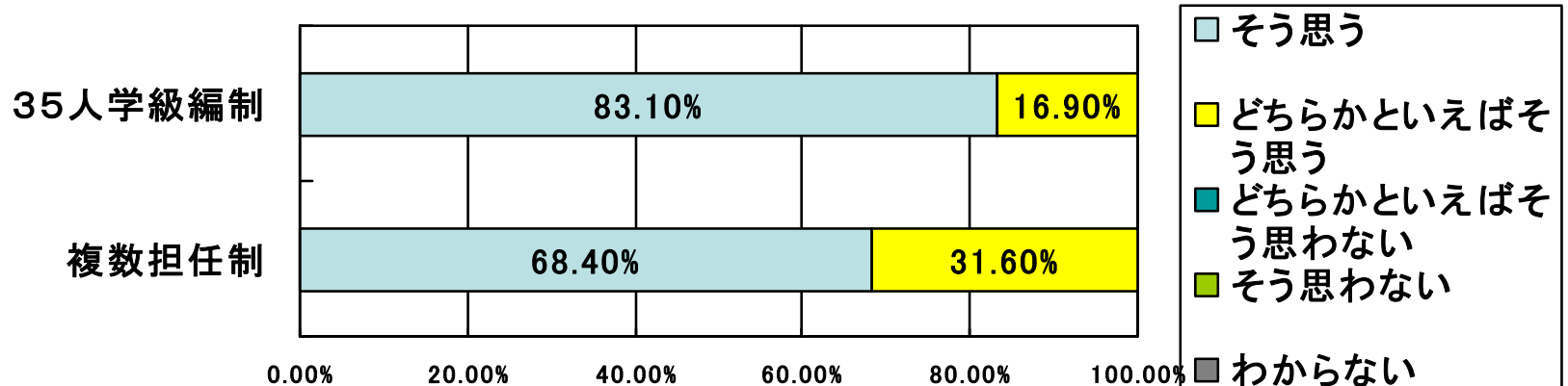


□学習面でのつまずきのある児童に素早く対応ができるかについて、「そう思う」と回答している割合は「複数担任制」が「35人学級編制」より14.1ポイント高い

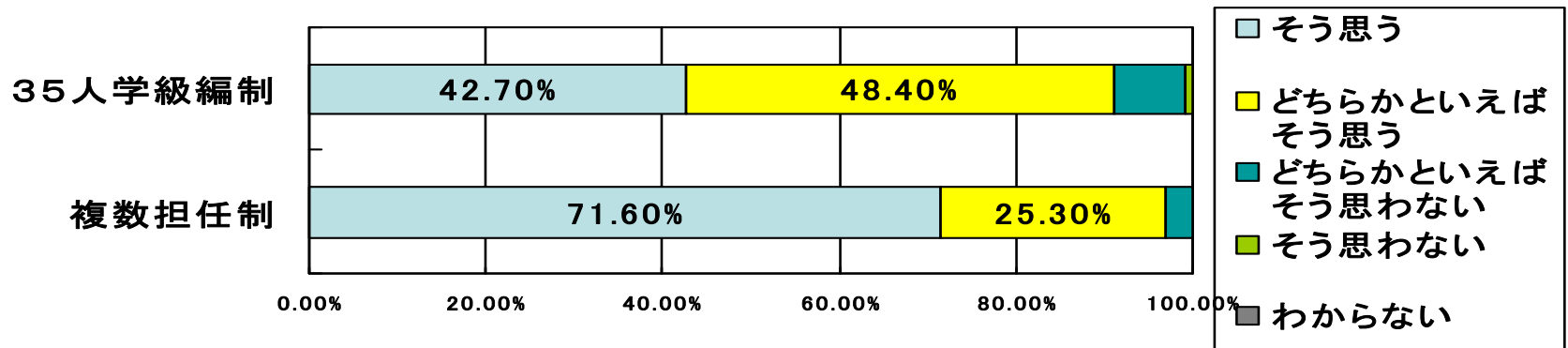


## 新学習システム調査結果(2)

□入学当初の児童の心の安定など、一人ひとりに応じた生活指導ができるかについて、「そう思う」と回答している割合は「35人学級編制」が「複数担任制」より14.7ポイント高い



□個別に指導を要する児童に対して、授業中に指導時間を確保できるかについて、「そう思う」と回答している割合は、「複数担任制」が「35人学級編制」より28.9ポイント高い



# 平成23年度実施状況

区分	全学校数	35人学級編制等の選択状況			
		対象校数 A(B+C)	35人編制を選択実施		複数担任制・少人数学習を実施 C
			校数 B	実施率 B/A	
1年生	792校	164校	163校	99.4%	1校
2年生		168校	151校	89.9%	17校
3年生		191校	169校	88.5%	22校
4年生		181校	148校	81.8%	33校

# 平成23年度定数改善の効果(1)

- ・小学校1年生の学級編制基準の引き下げ

対象校 164校のうち163校で35人学級編制を選択

選択率 89.7%(H22)→99.4%(H23)

- ・複数担任制を選択せず、35人学級を選択した学校において特段の支障は生じていない。
- ・法令改正を受けて、35人学級編制に対する保護者の強い期待がある。
- ・今後、2年生以上の35人学級の法制化により、教室不足等が生じる可能性もある。



# 平成23年度定数改善の効果(2)

## ・平成23年度定数改善

→小学校1年生の35人学級、少人数学習集団、  
兵庫型教科担任制で活用

### 兵庫型教科担任制とは

5・6年生で、「基礎学力の向上」や中学校への円滑な  
接続を図る観点から「教科担任制」と「少人数学習集団  
の編成」を組み合わせた「兵庫型教科担任制」の指定  
校での実践研究に取り組んでいる。

# 兵庫型教科担任制ってどんなシステム？

学級担任制のよさを生かしつつ、

「教科担任制」と「少人数授業」を組み合わせる複数の教員が指導します。

〔教科担任制〕 国語、算数、理科、社会の中から2教科以上を選択し、担任の交換授業を原則として実施

〔少人数授業〕 算数、理科で実施  
ただし学校の実情により、国語を含む上記3教科の中から最低1教科以上を選択することも可能

学年全体で、子どもの学習状況や生活状況を共有し、組織的・協力的な指導を効果的に推進することができます。

兵庫型教科担任制イメージ図

A先生とB先生が  
国語と算数を交換！

クラス	担任	国語	算数	理科	社会
6年1組	A	A	B/新	A/新	A
6年2組	B	A	B/新	B/新	B

教科担任制…国語、算数で実施(担任の交換授業)

少人数授業…算数、理科で実施(新学習システム教員の配置)

算数と理科で  
少人数授業！

担任の授業交換例<基本形>

2学級の場合 ... 国語と算数の交換、又は社会と理科の交換等

# 兵庫型教科担任制の期待される効果

1 「子供」の面からは、教員との人間関係や学習経験の広がりによる成長

2 「教職員」の面からは、多面的な児童理解に基づく、組織的・協力的な指導の充実

3 「学校」の面からは、発達や学びの連続性を確保するための小中学校の円滑な接続



(事例)小野市における兵庫型教科担任制の取り組み

# 今後の方向

新学習システムによる、学校や地域の  
実情を踏まえた指導体制の確立



新学習指導要領に求める言語  
活動や理数教育等の充実への対応

個に応じたきめ細かい指導により、知識、技能、思考力、  
判断力、表現力、学習意欲をバランスよく育成

小学校においても専門性を生かした教科教育を実施すると  
ともに小学校の学びを中学校へ円滑につなぐ体制の構築

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の確立